

Wi-Fi環境の具体的な整備モデルの提案

政策研究事業本部 研究開発第2部
主任研究員 萩原 達雄



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目 次

第1部 Wi-Fi環境整備分科会

1. Wi-Fi環境整備のモデルケースの提案と 実現上のポイントについて

モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

モデル②: 特定エリア(駅構内・商店街等)での環境整備モデル

モデル③: 広域での環境整備モデル(複数観光地のネットワーク化)

2. モデルケースの実現に向けた取り組み課題の 共有(質疑・意見交換)

3. Wi-Fi環境整備・活用に向けて(総括)

1. Wi-Fi環境整備のモデルケースの提案と 実現上のポイントについて

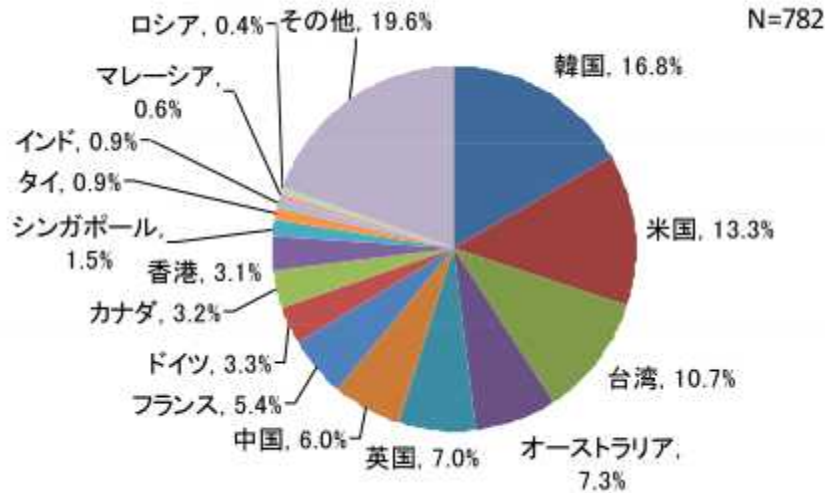
①第1回 Wi-Fi整備分科会のおさらい

■ 外国人旅行者に対するアンケート調査結果より

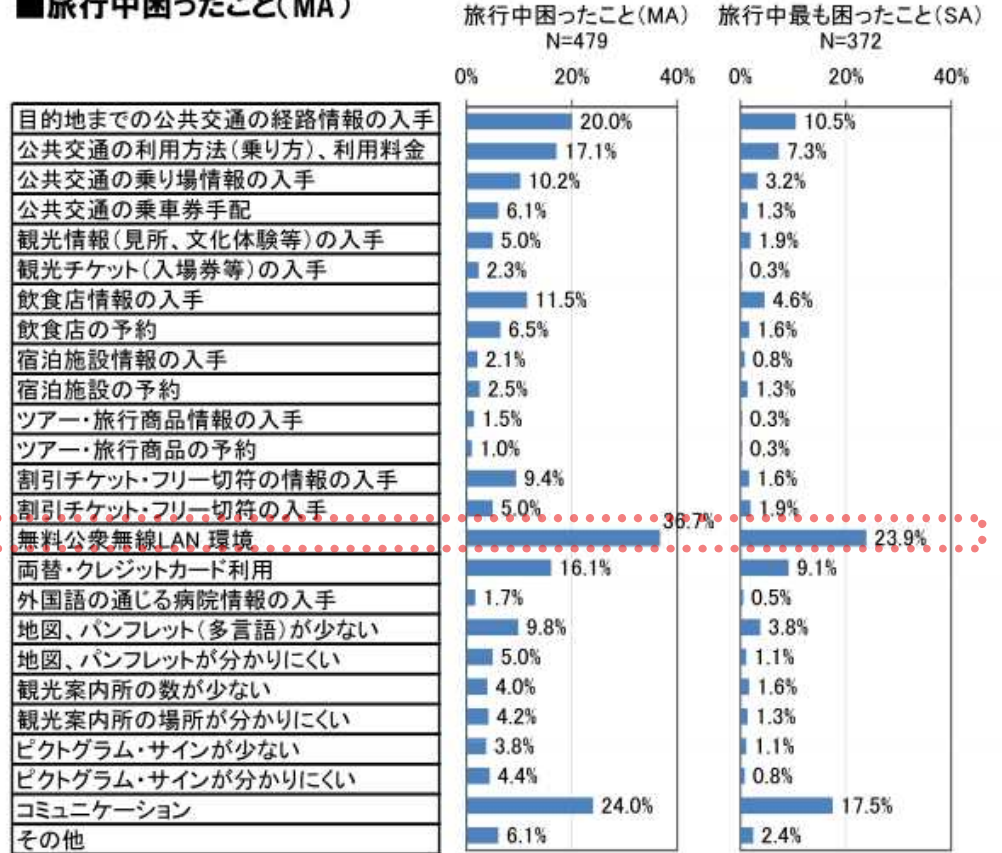
- 平成23年度 観光庁実施
- 空港や主要駅の観光情報センターにて実施

■ 旅行中に困ったこととして無線LANが第1位

- 無料無線公衆LANについて1/3の外国人観光客が困ったと回答



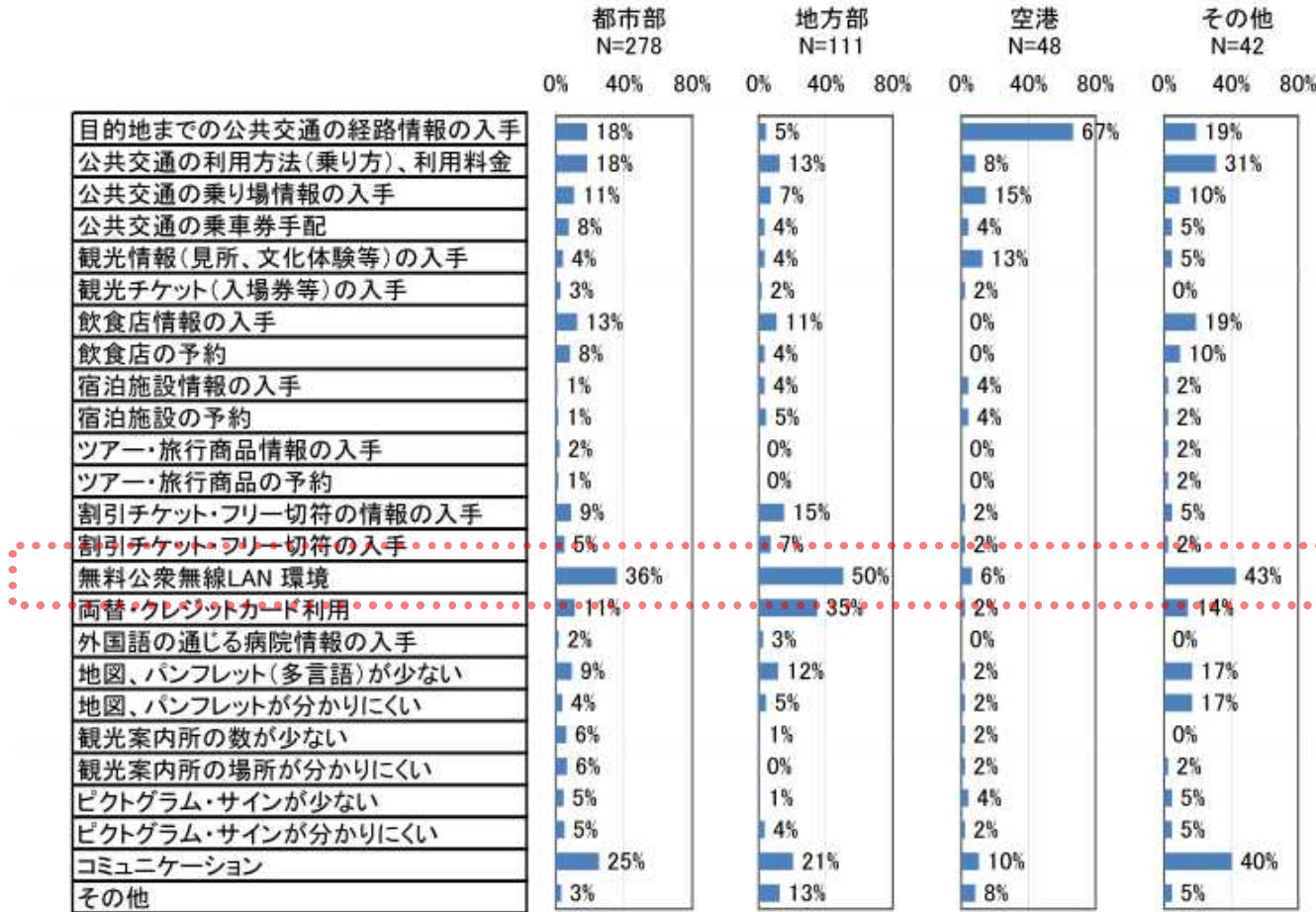
■旅行中困ったこと(MA)



①第1回 Wi-Fi整備分科会のおさらい

■ 場所別での通信環境へのニーズの相違

■ 調査場所別の旅行中困ったこと(MA)



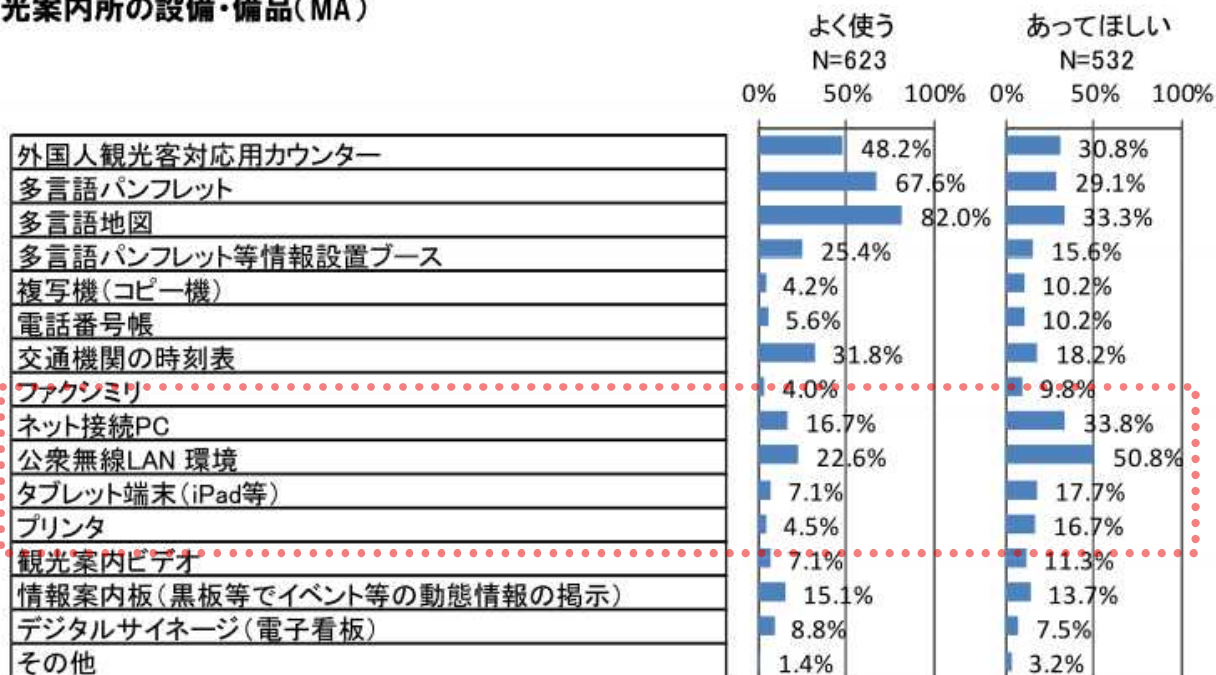
- 無料公衆無線LAN環境については、地方部のみならず都市部でも高い
- 常に情報アクセスを求める傾向に対応していく必要がある

- 都市部:**
 東京観光情報センター(都庁)
 京都駅総合観光案内所
 福岡市観光案内所
 旅館 澤の屋
- 地方部:**
 石川県金沢観光情報センター
 飛騨高山観光案内所
- 空港:**
 成田国際空港外国人観光案内所
- その他:**
 成田国際空港搭乗待合ロビー

①第1回 Wi-Fi整備分科会のおさらい

■ 観光案内所での通信環境へのニーズは高い

■ 観光案内所の設備・備品(MA)



- 観光案内所にあって欲しい機能としても、公衆無線LAN環境が半数以上
- 情報提供とともに、インターネットアクセス環境提供を求めるニーズが高い
- 個人端末で情報を調べるほか、メール等の送受信を行うなど、旅行中のインターネット接続のニーズの拡大は堅調である(スマホ・タブレットの普及により)

個人向け情報端末(スマートホン・タブレットPC)の普及に伴い、旅行中の情報入手時のアクセス環境に対するニーズも大きく変化している。こうしたニーズに適切に対応していくことが必要。

①第1回 Wi-Fi整備分科会のおさらい

■ 先行事例調査結果より

- ①東京都中央区 「G Free」
- ②石川県金沢市 「KANAZAWA AIR」
- ③京都府京都市 「KYOTO_WiFi」
- ④福岡県福岡市 「Fukuoka City Wi-Fi」
- ⑤北海道札幌市 「札幌インフォ」
- ⑥神奈川県箱根町 「箱根補完マップ」

■ 全国的な傾向として...

- 無料無線公衆LANについて地域全体で対応する動きが顕在化(例:大阪府・大阪市)
- アクセスポイントについても増加傾向
- 「差異化の手段」から「ホスピタリティ基盤」としての整備へ



②昇龍道エリアにおける整備モデルの提案

■ 整備モデルの検討経緯

- 第1回分科会において、昇龍道エリアにおける環境整備手法について質疑
- 今後の実施拡大に参考となるモデルを提示し、具体化を加速させる(協議会参加事業者と協議)

■ 整備モデルの整理

- モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル【**点のモデル**】
 - ◆ 特定地点での環境整備モデルとして提案(例: 名古屋駅内、駅前案内所、集客施設等)
- モデル②: 特定エリア(駅構内・商店街等)での環境整備モデル【**面のモデル**】
 - ◆ 地域内での面的な環境整備のモデルとして提案(例: 大須商店街)
- モデル③: 広域での環境整備モデル(複数観光地のネットワーク化)【**クラスター型のモデル**】
 - ◆ 複数の自治体・地域での連携を想定したモデルとして提案(例: 北陸飛騨三ツ星街道)

■ 整備モデルの詳細検討

- サービス提供事業者からの協力を得て、昇龍道エリアでの早期での具体化が期待できる手法を検討(既稼働事案含む)、実現にむけたポイントを整理

③モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

■ モデルの基本的な考え方

- 観光案内所を来訪する外国人観光客等に対するWi-Fi(無線LAN)環境を提供
- 観光案内所の情報ステーションとしての機能拡充につなげる

■ モデルの特長

- 既存施設内及びその周辺での利用環境の提供を想定
 - ◆ 特定地点でのホスピタリティの向上と情報提供に係る対応力強化を狙う
 - ◆ 公共の観光案内所のほか、駅待合所やホテルロビー、飲食店等を想定
- 短期間での導入・可読が可能なモデルであること
 - ◆ 最小限の時間とコストにて環境整備ができることが重要
 - ◆ 導入後のメンテナンス(利用状況の評価含め)もシンプルに対応できることも
 - ◆ 外国人観光客は勿論、地域にとっても魅力的なサービスであることも

■ モデルの導入にあたって実現上のポイント

- パッケージ商品を上手に活用することで、短期・低コストでの導入を実現
- 多目的利用を想定することで、導入効果を高めるとともに、コスト分散にも配慮

③モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

- モデル①-1 ターミナル駅構内観光案内所での環境整備
 - 名古屋駅等のターミナル駅構内に開設された観光案内所を想定
 - 施設利用上の条件(通信面、施設什器面など)等があるなかでのモデル
- モデル①-2 駅近接の観光案内所での環境整備
 - 一般的な観光案内所を想定
 - 施設運営者に施設利用の裁量がある場合でのモデル
- モデル①-3 地域の拠点施設での環境整備
 - 地域内の集客施設(観光施設、スポーツ施設、公共施設)を想定
 - サイネージ機能を活かした情報発信にも対応
 - 施設を相互ネットワークすることで、地域住民に対する面的な情報発信にも対応するモデル

③モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

- モデル①-1 ターミナル駅構内観光案内所での環境整備
 - 名古屋駅等のターミナル駅構内に開設された観光案内所を想定
 - 施設利用上の条件等があるなかでのモデル
 - 別資料をもとに解説(タケショウ株式会社)

イメージ: 名古屋市観光案内所 と タケショウ株式会社 「フリーモバイル」



※名古屋駅構内 名古屋市観光案内所にて試行的に稼働中(平成25年3月8日～)

③モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

■ モデル①-2 駅近接の観光案内所での環境整備

- 一般的な観光案内所(鉄道駅や道の駅に隣接して設置されているもの)を想定
- 施設運営者が自由な運用を行うことができるケースを想定したモデル
- 別資料をもとに解説(ソフトバンクテレコム株式会社)

イメージ: 高山市観光案内所 と
ソフトバンクテレコム株式会社 「WiFiルータ貸出」

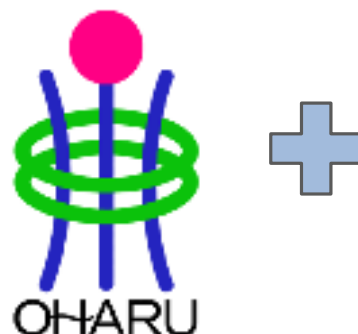


③モデル①: 観光案内所等の拠点施設での環境整備モデル

■ モデル①-3 地域の拠点施設での環境整備

- 地域内の集客施設(観光施設、スポーツ施設、公共施設)を想定
- サイネージ機能を活かした情報発信にも対応(平時、緊急時の利用にも配慮)
- 別資料をもとに解説(株式会社ウェルソック)

イメージ: 愛知県大治町 と
株式会社ウェルソック「Wi-Fiステーション」



※平成25年3月4日より稼働中

④モデル②: 特定エリア(商店街等)での環境整備モデル

■ モデルの基本的な考え方

- 回遊性のある観光地(動物園なども含む)や商店街など特定エリア全体での環境整備を想定したモデル
- アクセスポイントの通信範囲を重ねることで移動しながら通信し続けることも可能

■ モデルの特長

- アクセスポイントを複数設置して、面的にカバー
 - ◆ 設置場所については個々の事業者と調整にて対応
- バックボーン回線について、個々の事業者が契約する回線を間借りすることも可
 - ◆ 回線工事などの手間やコストを圧縮

■ モデルの導入にあたって実現上のポイント

- 地域や商店街等の組合内部での合意形成が先決
- 費用負担等について、組合費での対応ができないか検討が必要
- アクセスポイント(ルータ装置)の設置場所について、物理的な条件を踏まえた機器選択が必要(防塵防滴)

④モデル②: 特定エリア(商店街等)での環境整備モデル

■ モデル② 特定エリア(商店街等)での環境整備

- 商店街や回遊性のある観光地(動物園なども含む)など特定エリア全体での環境整備を想定
- アクセスポイントの通信範囲を重ねることで移動しながら通信し続けることも可能
- 別資料をもとに解説(株式会社バッファロー)

イメージ: 大須商店街 と 株式会社バッファロー「フリースポット」



※大須商店街内にて稼働中(平成25年〇月〇日~)

⑤モデル③: 広域での環境整備モデル

- モデルの基本的な考え方
 - 複数の観光地を広域でネットワークさせ、共通のサービスを利用した周遊性を提案
 - 電子的なクーポン発行により、地域内での消費行動を刺激
- モデルの特長
 - 情報交流フェーズと消費行動促進フェーズに分けて、構築した環境を活用
 - 広域での仕組み・システムの運用により、観光地間の連携を強化
 - 共通基盤とすることで導入・運用コストを分散化(採用するコストを小口にし、参加ハードルを低くする)
- モデルの導入にあたって実現上のポイント
 - 既存の広域連携プロジェクトとの親和性に配慮した準備が必要(調整等の時間確保が必要となる場合があることも織り込む)
 - 地域内ならびに地域間での連携を継続させる工夫として、人材育成も併せて対応することが重要

⑤モデル③: 広域での環境整備モデル

- モデル③ 広域での環境整備モデル(複数観光地のネットワーク化)
 - 複数の自治体・地域での連携を想定したモデルとして提案
 - 外国人観光客への環境整備のみならず、受け入れ体制の強化にも配慮
 - 別資料をもとに解説(富士通株式会社)

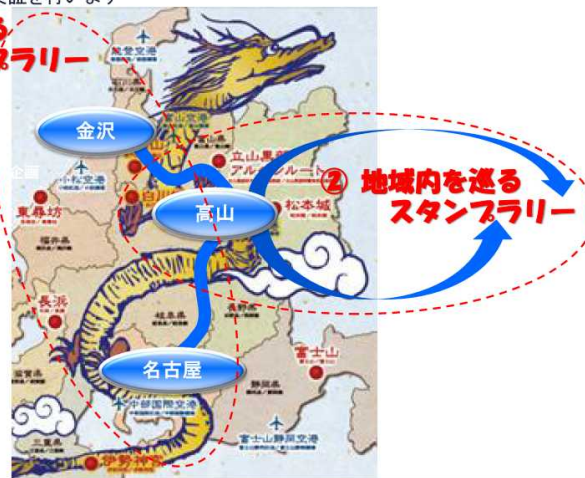
イメージ: 北陸飛騨三ツ星街道 と 富士通株式会社

モニターツアーコース(ご参考)

FUJITSU

名古屋から高山・金沢へ北上する広域コースと高山地域内を巡るコースを
組み合わせて実証を行います

① 広域を巡る
スタンプラリー



② 地域内を巡る
スタンプラリー

FUJITSU CONFIDENTIAL

8

Copyright 2013 FUJITSU SYSTEMS WEST LIMITED

2. モデルケースの実現に向けた取り組み 課題の共有(質疑・意見交換)

質疑・意見交換

■ 整備モデルに共通する疑問点

- Wi-Fi環境を構築する際に、何か特別な申請等はないのか？
- 外国人観光客以外に日本人観光客や地域住民にも利用してもらいたいができないのか？
- 光ファイバー回線などの高速な回線を前もって契約しておく必要があるのか？
- 安全面から、業務で利用している通信回線と分けておきたいが可能なのか？

■ 整備モデルの個別の疑問点

- モデル①について、それぞれコストが違うが、何を選択すればよいのか？
- モデル②について、ルータをたくさん設置すると、まちなみ(美観)への影響はでないか？
- モデル③について、システムを誰が管理することが望ましいのか？

参加者の皆様からいろいろなご質問や疑問点をご提起ください。

皆さんでよりよい解決策を考えていきたいと存じます。

3. Wi-Fi環境整備・活用に向けて (総括)